

厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業））
分担研究報告書

サービス付き高齢者向け住宅の探し方と消費者保護
- 地域包括ケアシステム構築のために -

研究分担者 本澤巳代子 筑波大学人文社会系 教授

研究要旨

地域包括ケアシステム構築のために重要な役割を果たすサービス付き高齢者向け住宅（サ高住）を消費者が探す際、重要なポイントを絞り込むため、神戸市消費生活マスター事務局の協力を得つつ、消費生活マスター介護問題研究会のメンバー7名が多様なサ高住を訪問調査した上で、簡便なチェックリストを作成した。

研究協力：消費生活マスター介護問題研究会および神戸市消費生活課消費生活マスター事務局

消費生活マスター介護問題研究会は、消費者問題解決の専門家を養成するため、神戸市が消費者庁の支援を受けて開設した「神戸コンシューマー・スクール」を修了した消費生活マスターの有志により結成され、本研究の分担研究者である本澤が研究指導しているものである。研究会会員は、富岡朝子、高松綾子、幸千尋、浜本久恵、小笹淳、酒井恵理子、南畑早苗の7名である。

A．研究目的

本研究の目的は、地域包括ケアシステム構築にあたって重要な役割を果たす高齢者の住居として各地で急速に整備されているサ高住見学の際、消費者目線から見て重要な事項を厳選するとともに、高齢者本人や支援者の利用しやすい簡便なチェックリストを作成し、公表することである。

B．研究方法

サ高住の種類や設備、提供される基本サービスや日常生活サービスの具体的内容は

多様であるから、サ高住見学のためのチェックリスト作成にあたっては、その多様な実態を知ることから始める必要がある。したがって、研究方法としては、介護問題研究会のメンバー7名が3グループに分かれて、神戸市内にある多様な種類のサ高住を実際に訪問して、聞き取り調査を行った。その上で、研究分担者・本澤の指導のもと、各グループの調査結果を基に、消費者が自分のニーズに合ったサ高住を探すために確認すべき重要事項を分析した。

（倫理面への配慮）

サ高住の訪問調査であり、事業者に対する聞き取り調査であるため、高齢者等の個人情報に関わることはなく、また、調査対象となった事業者名等も研究会内でのみ共有し公表はしないこととした。

C．研究結果

サ高住は、経営主体や立地条件、併設事業所など多様であり、サ高住見学のために必要な情報を提供するにあたっては、サ高住を分かりやすく分類し、各サ高住の特徴を明確にすることが重要である。入居を希望する高齢者のニーズに従って、日常

生活・医療・介護および費用について質問ができるようにすることが、高齢者本人および支援者にとって重要である。

D．考察

サ高住の特徴を分かりやすく表す言葉で分類をすると、都市型（駅の近くや町の中心部に立地。働き続ける人、生活を楽しみたい人など行動派向け）、郊外型（静かな環境に立地。交通の便は良くないが豊かな自然や静かな環境を好む人向け）、自立型（独立した生活ができる人を対象。生活を楽しむことや介護予防を主としたサービスを提供）、医療連携型（医療機関と隣接あるいは密接に連携して、介護サービスだけでなく医療サービスも提供可能）、介護重視型（退院直後の重度要介護者にも対応。24時間巡回サービスなど手厚い介護サービスを提供）、生活重視型（プライベートを大切にしつつ、買い物ツアーや習い事などのイベントで、生活を楽しむための行事が豊富）、その他にリハビリ重視型、ホテル並みの設備やサービスを提供する高級老人ホーム型などがある。

実際に見学したサ高住について、上記の分類、経営主体（株式会社、医療法人、社会福祉法人、NPO法人など）、立地、総戸数、併設事業所、部屋の広さ、敷金、毎月の費用について整理した。その上で、具体的な3ケース（女性の一人暮らし、要介護の夫と妻の二人暮らし、遠方で一人暮らしの母親を呼び寄せるケース）を想定し、各ケースごとに、見学候補となる3つのサ高住について特徴を挙げたうえで、各ケースのニーズとの関係を考察する。その考察を通して、一般消費者が自らの生活と重視する点を考察できるようにし、実際に見学に行くサ高住を絞り込むとともに、高齢者本人と支援者が一緒にサ高住を見学し、それぞれのチェックリストの重要事項について確認・記入する。見学後には、このチェ

ックリストを見ながら、高齢者本人と支援者とが改めてサ高住への入居を検討するという一連の流れを確認した。

E．結論

高齢期の住まい方は、各人の生き方や資産状況、築いてきた人間関係などにより多種多様である。サ高住を探す際には、予め自分の希望する暮らし方や必要事項を確認すること、各人のニーズに従って、日常生活・医療・介護・お金について短時間で質問ができるようにすること、高齢者だけでなく、子どもやケアマネージャーなど支援者と一緒に見学をし、その結果について話し合うことが重要である。

上記3点を考慮した結果、本人用と支援者用の2種類のチェックリストを作成するとともに、重要事項チェックできるように、文書記述のできるものとした。作成した2種類のチェックリストは神戸市のホームページに公表するとともに、解説を付けたブックレットとして刊行した。

F．研究発表

1．書籍刊行

本澤巳代子監修・消費生活マスター介護問題研究会著『サ高住の探し方』信山社、全55頁、2015年

2．口頭発表

本澤巳代子「ドイツ学術振興協会（DFG）ザイボルト賞受賞記念講演会・グローバルエイジングから日本の高齢化を考える」消費生活マスター介護問題研究会「消費生活講座・サ高住情報パンフレット」神戸市消費生活課主催、2015年11月21日、あすてっぴKOB E3階セミナー室

G．知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

なし